

携帯電話基地局市場及び周辺部材市場の現状と将来予測」の販売を開始

～モバイルキャリアのインフラ戦略及び投資動向と周辺部材市場を
キャリア・ベンダ・エンジニアリング会社等多角的な視点から総合的に分析～

移動体通信・IT専門の調査会社である株式会社エムシーエイ(<http://www.mca.co.jp/>)では、2011年12月12日に調査レポート「携帯電話基地局市場及び周辺部材市場の現状と将来予測～モバイルキャリアのインフラ戦略及び投資動向と周辺部材市場をキャリア・ベンダ・エンジニアリング会社等多角的な視点から総合的に分析～」(価格:210,000円/税込)を発売しました。

モバイルキャリアによるサービスの高速化が進む中、NTTドコモはLTE向け設備投資額を前倒しし、KDDI(au)がLTE向け投資の効率化、ソフトバンクモバイルは携帯電話向け投資の大幅増を計画しています。キャリア各社はLTE向けの対応に追われつつも、増大するトラフィックに対する既存設備の増強、2011年3月の東日本大震災によるインフラ戦略の修正など課題が多いといえます。

一方、基地局市場を取り巻く無線機や部材ベンダは基地局投資の前倒しがあるものの、キャリアからのコスト削減要求が依然として強い状況です。さらには無線機の小型化による技術力の向上や新技術の開発など、難しい対応を迫られています。また、エンジニアリング会社も基地局の新局工事単価の下落などから業界再編が進んでいます。各社は傘下企業の完全子会社化や、共同持株会社設立などによる相乗効果の最大化を図ろうとしています。

キャリア各社の設備投資額は年々縮小していく中、キャリアのインフラ戦略はどのように変わるのか、基地局向け投資はどのように推移していくのか、無線機や部材、エンジニアリング市場の現状や将来動向はどうか、以上が、このレポートのメインテーマです。

■調査対象先

<調査対象通信キャリア>

- (1)NTTドコモ
- (2)KDDI(au)
- (3)ソフトバンクモバイル
- (4)イー・アクセス(イー・モバイル)
- (5)UQコミュニケーションズ
- (6)Wireless City Planning

<調査対象無線機ベンダ>

- (1)ノキア シーメンス ネットワークス
- (2)エリクソン・ジャパン
- (3)日本電気(NEC)
- (4)富士通
- (5)パナソニック モバイルコミュニケーションズ
- (6)日立製作所

(7)華為技術日本

(8)日立国際電気など

<調査対象アンテナ&ケーブルベンダ>

(1)日本電業工作

(2)アンドリュー・ジャパン

(3)日立電線

(4)三菱電線工業

(5)電気興業など

<調査対象コネクタ&ケーブルベンダ>

(1)日本航空電子

(2)ヒロセ電機

<調査対象電源ベンダ>

(1)新電元工業

(2)オリジン電気

(3)サンケン電気

(4)富士電機など

<調査対象蓄電池ベンダ>

(1)GS ユアサ

(2)新神戸電機

(3)エナーシスジャパン

(4)古河電池など

<調査対象エンジニアリング会社>

(1)コムシスグループ

(2)協和エクシオ

(3)ドコモエンジニアリング

(4)KCCS

(5)ミライトグループなど

■調査結果抄録

2010年度は約1兆4,500億円も2015年度には1兆3,000億円に縮小

2010年度におけるキャリア各社の設備投資額はNTTドコモが6,684億円、KDDI (au)は3,387億円、ソフトバンクモバイルが3,515億円、イー・アクセス(イー・モバイル)は393億円、UQコミュニケーションズが500億円となった。投資抑制が叫ばれる中、キャリア6社の投資額合計は1兆4,279億円になっている。

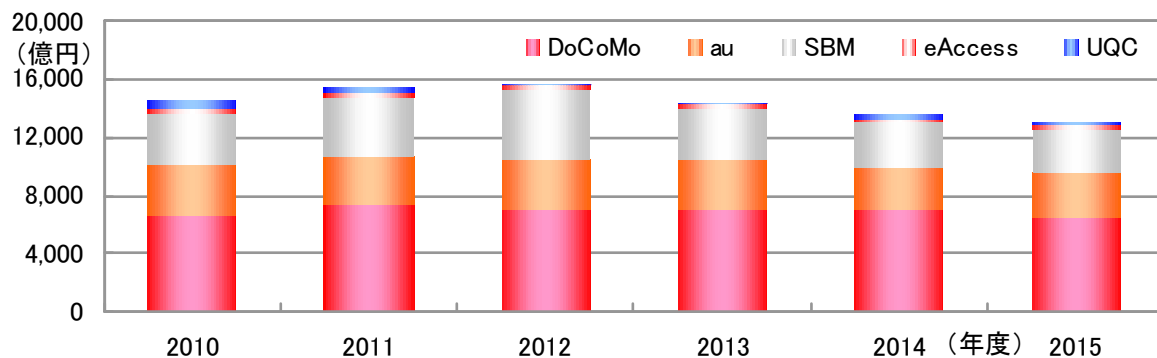
NTTドコモは2011年度に震災の影響から7,000億円を超えるものの、2012年度以降は7,000億円以下を維持する方針とされる。また、KDDI (au)は他キャリアよりも積極的にエリア展開を図るが、Wi-FiへのオフロードやWi-FiのバックホールにWiMAXを活用するなど全体の投資額を抑制する。一方、ソフトバンクは2011～2012年度に総額1兆円を投下するが、ソフトバンクモバイルへは約80%となる8,000億円の投下が見込まれる。

表：設備投資額の推移と予測（2010～2015年度、単位：億円）

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015
NTTドコモ	6,684	7,280	7,000	7,000	7,000	6,500
KDDI (au)	3,387	3,350	3,500	3,500	3,000	3,000
ソフトバンクモバイル	3,515	4,040	4,760	3,500	3,000	3,000
イー・アクセス (イー・モバイル)	393	400	300	300	300	300
UQコミュニケーションズ	500	300	100	100	200	200

※出典：キャリア各社、MCA推定。

表：設備投資額の推移と予測（2010～2015年度）



ソフトバンクモバイルが 2010 年度に国内最多数の基地局数キャリア

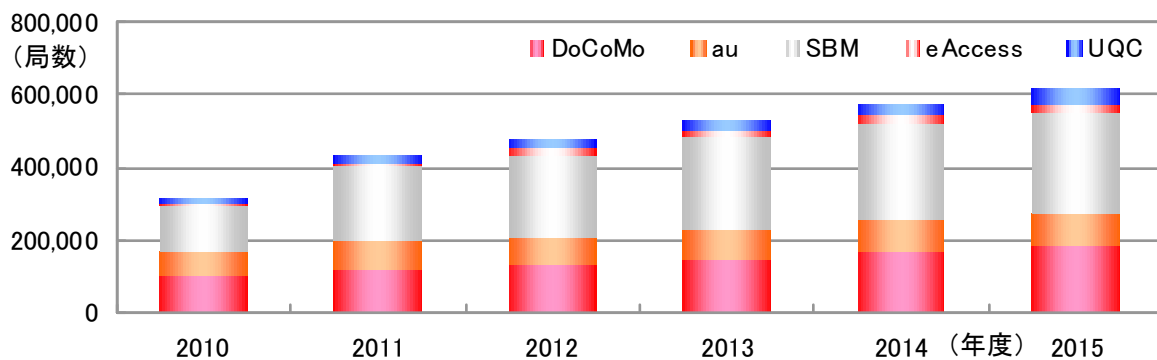
2010 年度における国内基地局数は 31 万 6,000 局となった。NTTドコモが 10 万 2,600 局、KDDI (au)は 67,100 局、ソフトバンクモバイルが 12 万 2,000 局、イー・アクセス(イー・モバイル)は 9,900 局、UQ コミュニケーションズが 14,400 局である。基地局数のみでいえば、すでにソフトバンクモバイルがNTTドコモを凌ぎ、国内最多数の基地局数を誇るキャリアになった。ただ、基地局数のみではエリアの質が不透明であり、今後もキャリア各社はエリアの拡充に努めていく。

表：キャリア 5 社の基地局累積・新局数と予測（2010～2015 年度、単位：局）

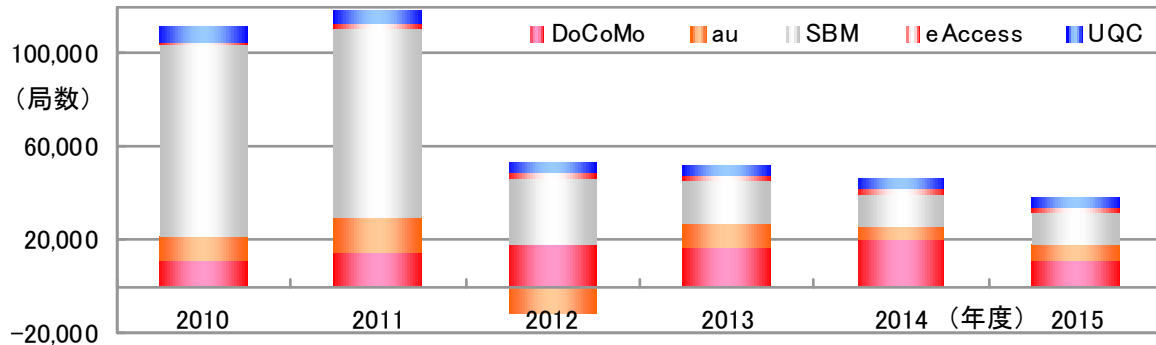
年度	区分	2010	2011	2012	2013	2014	2015
NTTドコモ	累積局	102,600	116,700	134,500	151,500	172,000	183,200
	新局	11,238	14,100	17,800	17,000	20,500	11,200
KDDI (au)	累積局	67,100	81,900	70,200	80,300	85,600	92,300
	新局	10,770	14,800	-11,700	10,100	5,300	6,700
ソフトバンク モバイル	累積局	122,000	204,000	232,700	251,000	265,000	279,000
	新局	82,000	82,000	28,700	18,300	14,000	14,000
イー・アクセス (イー・モバイル)	累積局	9,900	12,300	14,500	16,700	18,800	20,900
	新局	760	2,400	2,200	2,200	2,100	2,100
UQ コミュニケーションズ	累積局	14,400	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000
	新局	7,400	5,600	5,000	5,000	5,000	5,000
合計	累積局	316,000	434,900	476,900	529,500	576,400	615,400
	新局	112,168	118,900	42,000	52,600	46,900	39,000

※出典:MCA 推定。

表：キャリア 5 社の基地局累積局数と予測（2010～2015 年度）



表：キャリア 5 社の基地局新局数と予測（2010～2015 年度）



表：次世代ネットワークの供給マップ

キャリア名	コアネットワーク	基地局
NTTドコモ	NEC、富士通	NEC、富士通、エリクソン・ジャパン、パナソニック モバイルコミュニケーションズ、エリクソン・ジャパン、三菱電機、東芝
KDDI (au)	日立製作所	ノキア シーメンス ネットワークス、日立製作所、サムスン電子
ソフトバンクモバイル	エリクソン・ジャパン	エリクソン・ジャパン、ノキア シーメンス ネットワークス
イー・アクセス (イー・モバイル)	エリクソン・ジャパン	エリクソン・ジャパン、華為技術日本
UQ コミュニケーションズ	—	サムスン電子、NEC、日立製作所
Wireless City Planning	—	中国 Huawei Technologies、ZTE

※出典:MCA 推定。

■調査資料の詳細

発行日:2011 年 12 月

判型:A4 コピー刷り製本 174 頁

発行・販売:株式会社エムシーエイ

〒117-0022 東京都豊島区南池袋 3-18-30 ファースト日野ビル 4F

TEL:03-5928-5925/FAX:03-5928-5921

URL:http://www.mca.co.jp/ E-Mail:info@mca.co.jp

頒価:210,000 円(税込)

調査期間:2011 年 9 月～2011 年 11 月

■資料の問い合わせ先

株式会社エムシーエイ(<http://www.mca.co.jp/>)

大門(daimon@mca.co.jp)

TEL:03-5928-5925/FAX:03-5928-5921